

令和7年度 障害者支援施設 丹波桜梅園 地域連携推進会議 議事録（第1回）

日 時：令和7年7月25日（金）10:00～11:30

会 場：丹波桜梅園 会議室

出席者：利用者代表、利用者家族、地域関係者、福祉関係者、施設長、サービス管理責任者
(計6名)

1. 開会・あいさつ

本会議は初めての開催となるため、施設長より挨拶があり、その後、出席者全員による自己紹介を行った。続いて、施設長より丹波桜梅園の概要について、配布資料（レジメ）に沿って説明があった。

2. 議題

① 施設と地域の連携について

- 地域連携推進会議の初開催に伴い、施設長より丹波桜梅園の概要説明を実施。
- アルミ缶回収、町内花火大会、障害者ふれあい広場、秋祭り、ブルーベリー収穫体験など、これまで多様な地域交流を行ってきたが、コロナ禍により活動を控えていた。
- 先日、瑞穂小学校を訪問し、体験活動などを通じた交流機会の創出を提案した。
- 利用者家族からは「利用者と地域の関わりを望む声」が多く、地域側からの協力も期待したいとの意見があった。
- 地域関係者からは「小規模でもよいので地域と関わるきっかけが必要」との意見があった。
- 福祉関係者からは「広報（ケーブルテレビ等）を通じて地域に知ってもらう機会があると良い」との意見があった。

② 施設やサービスの透明性・質の確保について

- 配布資料（5項目）、桜梅園だより、パンフレットの日課内容について施設長より説明。
- 利用者の年齢層は20～84歳と幅広く、若い利用者の行動や高齢者との生活により、一定のリスクがあることを共有。
- 感染症（コロナ・インフルエンザ等）は安静を保てる利用者が少ないため、施設内で広がりやすい状況がある。
- 利用者家族からは「コロナ禍でもよく見てもらっている」との声が多く、安心しているとの意見があった。
- 年間5回の保護者会や施設見学・検食の機会を通じて透明性を確保している。
- 次回の地域連携推進会議でも施設見学を実施し、意見を反映して質の向上につなげたいとの提案があった。

③ 利用者の権利擁護について

- レジメに沿って4項目について施設長より説明。
- 交流機会が少ない現状では、地域に施設や利用者の様子を知ってもらうことが難しいとの課題を共有。
- 職員シフトは変則勤務で、支援が必要な時間帯に職員を配置している。
- 職員募集は継続しているが応募が少なく、職員の高齢化が進んでいる。
- 虐待防止については常に注意喚起を行い、怪我・誤薬・落葉などの事例は報告書やヒヤリハットをもとに毎月会議で検討している。
- 金銭管理は各ルームの金庫で月1万円以内を保管し、担当者のみが番号を把握する形で管理。
- 災害時の福祉避難所として協定を結んでいるが、実際の利用はない。
- 地域住民が福祉避難所の存在や施設の場所を知らない可能性があり、周知の必要性が指摘された。
- 施設周辺の木々の枝については、役場へ伐採の相談を行っている。

④ その他（意見）

◇地域関係者より

- 地域関係者が集まる場でも、今回の内容を報告していきたいとの意見があった。

◇福祉関係者より

- 施設の取り組みや課題について共有できたことを職員にも伝えたいとの声があった。

◇利用者家族より

- 利用者が地域と関わりながら生活していることを嬉しく感じるとの意見があった。

3. 閉会

以上の内容をもって会議を終了した。

令和7年7月30日

記録：サービス管理責任者